

これまでの審議のまとめと今後の検討課題

1. 四條畷市における解決すべき教育環境等の課題

○少子化にともなう学校規模の適正化

- ・児童生徒数の過不足は学校運営に支障をきたす
- ・教職員数の少なさが多彩な教育活動の展開を妨げる
- ・人間関係面の配慮、生徒同士の集団作りには一定の集団規模が必要
- ・東部地域の小規模校についても検討する必要がある
(地理的な問題で小規模校の解消が困難な場合、小中連携の充実をはかることでカバー)

○同一小学校からの進学先の相違

- ・一部地区での中学校進学時の校区のねじれにより、子どもが影響を受けている
- ・地域で子どもの育成を見守る観点から、地区・校区のつながりが必要である
- ・小中連携から継続的に小中連携へつなげる重要性

○老朽化が進む校舎

- ・新しく整備する学校と既存の学校とで差があってはならない
- ・ICT環境など、教室内の施設整備についても、各校で差がないようにすべき

2. 四條畷市における適正な学校規模の標準

- ・学校行事などを含めた教育活動の運営、子どもの人間関係面での配慮等を勘案し、12～18学級を標準とすることが望ましい
- ・市長部局と連携し、人口増加策を検討するとともに、東部地域の学校のありかたも今後検討すべき

適正な学校規模を整えるためには、西部地域においては4小2中が適当と考える

3. 適正な学校配置の方針、小中連携・一貫教育の充実のための校区編成

- 一世代（30年程度）を見通しつつあるべき姿を考える
- 国道163号線とJR線で大きく4つに区切り、通学路の安全対策を大前提に、地域活動のベースとなる自治会単位を重要視した校区割とする
- 地域における学校の役割（防災拠点・地域コミュニティ）を念頭に置く
- 中学校区（2小1中、田原地区は1小1中）単位で小・中が連携した教育を推進するとともに各地区・地域の意向を十分に聴取し、特定の事情による指定校変更制度も検討

岡部小学校・くすのき小学校 ⇒ 四條畷西中学校

忍ヶ丘小学校・新小学校（四條畷南中跡に整備） ⇒ 四條畷中学校

4. 校区再編をすすめるにあたっての具体的課題

①通学の遠距離化

通学方法

- ・自転車通学は被害にも加害にもなりうるという危険性から望ましくない
⇒暇中の坂の下あたりに駐輪場の設置を検討
- ・電車通学については、時間や費用の負担が課題
⇒鉄道以外の交通手段（コミバス、スクールバス等）の検討
⇒交通費用の保護者負担の検討

②通学の安全性確保

ハード面

- ・危険箇所の把握と通学路の設定・整備
⇒通学路交通安全プログラム策定、安全点検と計画実施
- ・防犯カメラの設置
⇒各地区の意向と支援制度の創設

ソフト面

- ・交通専従員の拡充
⇒現状把握の上、配置時間や配置人数、配置場所等の検討
- ・地域の見守り
⇒地域・学校（教職員）との協働の仕組みづくり
- ・安全教育
⇒学校や家庭での「自分の身は自分で守る」安全教育の充実

③転籍に関する不安軽減

- ・中3、小6時での転籍や少数での転籍への配慮
⇒一部地区における経過措置案
- ・クラブ活動の継続
⇒クラブ交流や合同練習などの方策を検討、教職員人事面での配慮
- ・支援学級生など、配慮の必要な児童生徒への影響
⇒統合準備に十分な時間をかける（統合準備委員会を設置し、教育内容や学校行事、生活・学習指導などのすり合わせと児童生徒間交流、保護者との密な連携を行う）

5. これからの学校に求められること

- ・統廃合の機会をプラスにとらえ、学校（教職員）・保護者・地域の連携によりどのような学校を作るかが大切である
- ・子どもたちにいかに新しい学校に夢をもたせることができるか、主体的に関わらせるか
- ・通学路だけでなく地域の道としてとらえ、地域の大人の意識を変える
⇒保護者・地域・学校参画のワークショップでこれからの学校のコンセプトづくり
- ・9年間の連続した育ちを見通して、小中が連携した学習指導や生徒指導などが重要
⇒2小1中体制による小中連携・一貫教育の深化
- ・ハードの充実に伴うソフトの充実／教職員の資質向上、教育に専念できる環境づくり
⇒教育センターによる学校支援・教職員支援、外部人材の活用